

同時資料提供
大阪科学・大学記者クラブ
大阪教育記者クラブ
南大阪記者クラブ
関西レジャー記者クラブ

新春ミニ展示「丑年展」を開催します ～ウシにちなんだいろいろな生き物たち～

2021年(令和3年)は丑(うし)年。令和2年12月12日(土)～令和3年1月11日(月祝)、及び令和3年3月13日(土)～3月28日(日)の間、博物館本館出入口付近の展示コーナーにて、毎年恒例の新春ミニ展示「丑年」展を開催します。「丑年」に関連して、「ウシ」にまつわる様々な生き物を展示します。ウシのツノのような突起をもったウシヅノエンマコガネやウシカメムシ、葉の形がウシの顔のようなミゾソバ、おおきなウシガエルやハスエラタテジマウミウシの標本を展示予定です。

■開催概要

1. 名称：新春ミニ展示「丑年展」
2. 会期：令和2年12月12日(土)～令和3年1月11日(月祝)、及び令和3年3月13日(土)～3月28日(日)
※令和3年1月12日(火)～3月12日(金)は本館改修工事のため臨時休館
3. 開館時間：午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)
4. 休館日：毎週月曜日、12月28日～1月4日(ただし1月11日(月祝)は開館)
5. 場所：大阪市立自然史博物館 本館1階 出入口付近
〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23
TEL:06-6697-6221(代表) FAX:06-6697-6225
大阪メトロ御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m
JR阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1,000m
ホームページ：<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>
6. 観覧料：常設展入館料(大人300円、高大生200円)
※中学生以下、障がい者手帳など持参者(介護者1名を含む)、大阪市内在住の65歳以上の方は無料(要証明)。30人以上の団体割引あり。

■広報に関する問合せ

大阪市立自然史博物館 総務課 広報担当

TEL : 06-6697-6222 FAX : 06-6697-6225

■広報用画像



＜ウシヅノエンマコガネ＞南西諸島に分布するコガネムシのなかまです。頭部から左右に角が伸びて水牛のように見えます。



＜スイギユウ属＞ウシ科スイギユウ属の頭骨で、備讃瀬戸で見つかったものです。スイギユウ属は左右に張り出した大きなツノが特徴です。写真は頭骨の化石（レプリカ）で、上方に右側のツノが保存されていることが確認できます。



＜ウシガエル＞池などで、ボーボーと大きな声で鳴いている大型のカエルです。オタマジャクシもとても大きくなります（孵化直後は普通に小さいけど）。特定外来生物に指定されているので、飼育はできません。



＜ミゾソバ＞ミゾソバは水辺に生えるタデ科の草で、秋になると桃色のきれいな花を咲かせます。葉の形がウシの顔のようなので、別名「ウシノヒタイ」と呼ばれます。



＜ハスエラタテジマウミウシ＞ウミウシとは、後鰓類と呼ばれる巻き貝の仲間の総称です。多くは殻を持たない細長い体で、2本の触角がウシの角のように見えるからなのでしょう。今回展示するハスエラタテジマウミウシは房総半島以南に生息する大型のウミウシで、この標本は1952年（昭和27年）1月に昭和天皇が三浦半島の葉山沖で採集されたものです。陛下のご研究を支えていたウミウシ研究者の馬場菊太郎がこれを新種と認め、1955年（昭和30年）に生物学御研究所編纂の「相模湾産後鰓類図譜補遺」で発表しました。展示標本は後に馬場に御下賜されたものです。標本瓶には大小2個体のハスエラタテジマウミウシが入っており、大きい方は体長約14cmに及びます。ちなみに、昭和天皇は1901年（明治34年）辛丑（かのとうし）のお生まれです。